

## 市町や県民の意見等について

## 1 市町に対する3検討委員会中間まとめ説明時の意見・提案（「美の滋賀」関連分）

NO	意見	備考
1	これまで点でしかなかった文化施設を連携させ、線や面にしたい思いがある。	1
2	PRという点では、昨年の琵琶湖文化館の収蔵品の九州国立博物館への貸出などいいことだと思う。	1
3	手法が地域に密着していないとだめだと思う。根付くものでないと支持されない。	1
4	県内の美の資源の全体を把握することは有効だと思う。	1
5	気軽にたくさんの人に見てもらえるようにするには、駅などの気楽に行ける場所に展示するのがよい。	1
6	今年度、3館連携で「神仏います近江」展が実施されたが、市町も博物館を有しており、連携して地域の情報を出していくのは有効だと思う。	1
7	美術館に文化財が加わることで幅が広がり、違う分野のものを関連付けて発信することに取り組みやすくなると思う。	1
8	文化財については美術館に集めるばかりでなく、各市町の現地で見るのが大事である。学芸員が市町に来て見学会などを行うなど、地域の人たちへの宣伝も必要である。	1
9	3つの分野を美術館でカバーしていくという話は、実現すれば確かに良いが、本当にできるとは思えない。	1
10	県民・市民の人生に芸術を活かしていくにあたり、一緒に何をやるのが具体的なものが見えない。市としても鑑賞も含めて芸術活動で市民の人生が豊かになるように協力していきたいと思うので、今後、具体的な行動計画ができれば提示して欲しい。	2
11	県でブランドの取組を進めているところへ今度は「美の滋賀」の発信ということであり、これまで県が実施してきた文化行政とのつながりが今のところ見えない。	2

1・・・第1～3回の懇話会で議論された事項

2・・・県が実施段階で検討していくべき事項

## 2 滋賀art広場(「美の滋賀」県民フォーラム)での意見・提案

NO	テーマ	意見・提案	備考
1	美の滋賀	仰木の町へ何度も行っているが、その場所で人々が生活する姿は美しい。仰木だけでなく、滋賀では各地域で水にまつわる祭や、昔から続くその地域だけの特別なものなどがある。そのようなものを伝えていって欲しい。また、滋賀での地域での活動を県外へ知らせていって欲しい。	1
2	美の滋賀	芸術は人工的なもの。しかし、滋賀県は自然がすごい。芸術と自然の関係をテーマに取り入れることも考えねばならないのでは。	1
3	美の滋賀	暮らしそのものに価値がある。自然とともにある日々の営みをどうやったら守り、受け継いでいけるのか。そういう「美の滋賀」を発信したい。	1
4	美の滋賀	「滋賀県そのものが美術館」を目指すためには、美術品などの物を動かす・集めるのではなく、人が移動する・訪れるということが大切。滋賀県には、仏像など美術館の中で見るもの以外に、その場の生活や自然・空間といった場所そのものに良いところがたくさんあるように感じる。	1
5	美の滋賀	近代社会=規格で秩序立てる社会を考えると、アール・ブリュットやコンテンポラリーアートをその外だと捉えるのは理解できるが、仏教美術まで括るのはやや無理があるように思う。	1
6	美の滋賀	仏教美術やアール・ブリュットなどを滋賀から発信し、それらに触れるなかで、次世代の子どもたちの中から新しい才能、芸術家が出てくると思う。その人たちが発表する場やチャンスをもっと広げられないか。	1
7	美の滋賀	アール・ブリュット、近代美術、仏教美術の3つが共存する具体的なプランはあるのか。それぞれが別々の方向に発信されてしまうのではないかと、個別発信された時にそれが大きく育つのかということが少し不安。	1
8	美の滋賀	「美の滋賀」の取り組みについて、近代美術館を軸に展開されているように感じるが、それだけだといわゆる鑑賞するだけの美に留まってしまうのではないかと。そこから、どうやって人々の暮らしに根付く美、生活の中の美というものに展開させていくのが重要。	1
9	美の滋賀	駅を発信の場にするのが良いのではないかと。多くの人に美をもっと身近に感じてもらうよう、ちょっと立ち止まるだけで滋賀を見る・知ることができるような発信の仕方があっても良いと思う。良さの全てを伝えられる場ではなく、興味・関心を持ってもらうというだけのものがあっても良いのではないかと。	1
10	美の滋賀	滋賀県内に散らばっている寺や神社を巡礼するように、コンテンポラリーアートの家プロジェクトを常設していけば、美(アート)を通じて世界中の人たちが訪れるのではないかと。そうすれば、同時に寺や神社へも人が通うようになると思う。	2
11	美の滋賀	「美の滋賀」を発信するのに、まず県職員が美に触れることが大切。県庁の中で本格的なギャラリーを作ってはどうか。そこで職員、一般県民にも自由に観ていただき、同時に文化のコーディネーターも養成する。(近代美術館の出先機関であっても良い)	2
12	美術館	滋賀県立近代美術館で、仏教美術、アール・ブリュットを併せて発信するのは盛り沢山だが本当に可能か。対応する施設の増設、専門職員の確保など相当ハードルが高いと思う。従来型の美術館の発想ではとても無理。革新的な取り組みが必要。	-
13	美術館	小・中学校のような教育現場にも行ってもらいたい。子どもにとっては、親が芸術に興味がない限り触れる機会が少ない。	-
14	美術館	JR・京阪の公共交通機関からシャトルバス(美術館バス)を平日・土・日とも多く運行して欲しい。	-
15	美術館	キャプション、説明案内の字が小さく暗い。	-
16	美術館	高校で美術の講師をしているが、生徒を外に連れ出すのは難しい。美術館側からアプローチ等があれば動きやすい。良い美術に生徒に触れさせたい。	-

17	美術館	滋賀県の文化施設は、びわ湖ホール・近代美術館・陶芸の森など入りにくい構造のものが多い。親しみやすさに意識的に取り組む必要がある。	-
18	仏教美術	地域に存在する寺社の中には過疎化などで人口が減り仏像の管理が難しく、実際に仏像が盗難されたという話を聞いた。地域の仏像をいかに管理するか、地域に任せきりにするのではない仕組み作りが重要。	-
19	仏教美術	滋賀の仏像を現地で鑑賞する仕組み作りが必要。美術館ではなく現地を訪れてもらうのが重要。滋賀だけではなく、奈良・京都とともに「仏像100選」を選定してはどうか。	-
20	アール・ブリュット	美術館で収蔵するのは良いが、既に活動しているボーダレス・アートミュージアムNO-MAとの連携協力だけでなく、活動のすみ分けを明確にするべき。	-
21	アール・ブリュット	アール・ブリュットの作家は基本的には自ら発信しないので、代理者(アドヴォケート:擁護者、弁護者)の役割が重要になる。どういう人が代理者たるべきか問う必要があるのではないか。	-
22	アール・ブリュット	アール・ブリュットだけが「美」ではないと思う。	-
23	アール・ブリュット	アール・ブリュット作品は、生活の中から生まれているところに魅力がある。正しく評価されることは大事だが、あまり権威付けて生活から遠ざかることがないようにしてほしい。	-
24	アール・ブリュット	糸賀さんは障害のある人全てが世の光と考えられた。「アール・ブリュット」のみを「光」とするのはどうか。	-

1・・・第1～3回懇話会で議論された事項

2・・・県が実施段階で検討していくべき事項

-・・・個別の検討委員会に関係する事項

### 3 県広報誌「滋賀プラスワン」 11/12月号に対する読者コメント

NO	主な意見・感想など
1	人々を元気にするアートの力ってすごいと思います。震災で傷ついた人々の心に明かりの灯になってくれるのですもんね。私も落ち込んだりすると気分転換でアートの力をかりてます。
2	「美の滋賀」が盛り上がってくるととても良いなと思います。美術館の包まれるような、静かだけどあたたかい感じが昔から大好きです。京都駅にある美術館「えき」のようなふらりと立ち寄れる美術、アートにふれられる場が近くにあるとうれしいです。
3	”文化は生活に密着しているものであり、衣食と同じように大切なもの”という嘉田知事の話に心を打たれました。
4	文化は衣食と同様大切であるという意見に賛成です。文化に関する情報発信に留まることなく、文化に接する機会を増やすアクションをお願いします。
5	滋賀の「美」は目や耳だけで感じる芸術だけでなく、本当に滋賀は生活の美、山に囲まれ琵琶湖を真ん中にして住んでいることに嬉しく思い癒されています。
6	美術館や音楽会に行くことが「美」に触れると思っていましたが、もっと身近な人や生活の中にも”滋賀ならではの美”があるんですね。さっそく、滋賀の美を見つけたいです。
7	滋賀の自然や国宝・重要文化財の数が全国第4位、奥深い魅力と価値について再認識をいたしました。この得難い資産を、県民はもちろん全国的に発信して下さい。
8	「美の滋賀」美しく、うれしい言葉ですね。特に鷲田先生の、芸術としての美はもちろんのこと、整然とした棚田、あぜ道など古人が残してくれた、暮らしに根ざした美意識、いつくしみの心・・・美の滋賀の原点はこれだと深い感銘を受けました。
9	人間が人間らしく生きるためにアートや音楽は本当に大切。本当の豊かさってこういうところにあるんですね。特に地元のものってつい見落としがち。季節もちょうど秋。身近な美しいものに触れてみよう。
10	滋賀の美とはつまり、「自然の美」であり「アートとしての美」「生活の中に浸透している美」ということを再確認しました。私は約60年、滋賀の魅力とその住み心地の良さを味わって参りました。今老境にあって、その「滋賀の美」がつかなく人の絆の強さと大切さを切実に感じております。
11	嘉田知事と鷲田さんとの会話を読んでいるうちに、いかに人との絆が宝物か、また元気にもしてくれるアートの世界、自分自身も変えられるすばらしいものだと思えてきました。
12	日本や世界に向けて”美”を発信する機会が、これからどんどん増えればさらにすばらしい滋賀県になると思います。これからも滋賀に住んでいることを誇りに思えるような情報を掲載していただけることを期待しています。
13	滋賀の美は人々にとってとても大切なものだと思います。風景だとか昔からある建物とか、また新しく作り出される物とか、それらのもの全部ずっと大切に守って、いつまでも残しておきたいものです。滋賀に帰ってきたらほっとできるものを、たくさんこれからも残してほしいです。
14	文化的なことは衣食と同じように大切に、根源的に人間を元気にし価値観や心を豊かに整えてくれる必要なものだと思います。滋賀の暮らしのためによりしくお願いします。
15	普段の生活の中ではなかなか美術館に行くことはなく、最近は寺社に行くことが多いのですが、仏像の作りの細かさにすごいなぁの連発です。滋賀と言えば琵琶湖。見ているだけで落ち着きます。
16	「滋賀の”美”がつかなく人の絆と暮らしの未来」を興味深く読みました。滋賀の自然の美しさ、暮らしに根ざした美意識が子供の世代においても残せるようにと思います。表紙のイラストがほのほのとしてとてもステキでした。
17	興味深く読ませていただきました。滋賀県がアートを通じて行動を起こすということに感嘆しました。滋賀県のできること、しないといけないことの幅広さを感じました。

18	知事さんと鷺田様の対談で、人の絆の大切さを感じました。アートにより被災者の方々に勇気を与え、元気づけたり笑顔が戻ったりということは、アートの力はすごいと思う。
19	滋賀県の国宝・重要文化財の数が全国第4位と豊富な「美」の資源を持つ県に住んでいることのすごさ、誇りを感じています。“滋賀”をもっともっと全国に意識づけ、アピールしていただきたいです。
20	これだけの文化財・史跡があるのなら、高齢者など誰でもバスで周遊できるように観光ルートを整備して、もっと観光客誘致に生かせるようにした方が良くと思います。
21	滋賀県民の一人として、その誇るべき価値や魅力を改めて認識させられました。私たちはこのすばらしさを守り発展させて、次の世代に引き継いでいく大きな責任があると思います。
22	美術館だけではなく、街の中や自然の中にも現代アートの作品を展示するようなアートフェスティバルがもっと広がるといいなと思いました。私も何かすることがあるか考えてみたいと思っています。
23	美をきっかけに新しいつながりや絆を作っていくという言葉に深い感銘を受けました。やはり人間は色々なつながりがないと生きていけないと思うので、滋賀の発展のため大いに取り組んでいただけたらうれしく思います。
24	アートが芸術という特別なものではなく、衣食と同じぐらい必要なものであり、広い意味でもっと生活の中に取り入れられたりできるといいなあと感じました。
25	滋賀の美の記事を読んで、滋賀で育ち暮らしている中でもっと身近な伝統の催しや文化を感じ、携わっていかねばと思いました。
26	普段の生活の美がアートとなり、それによって人の絆、元気を紡いでくれる。素晴らしいと思います。一層力づけられました。